

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	市民活動コーディネート講座		
事業の実施者	横浜市立大学地域貢献センター		
	横浜市		
事業の目的	様々な市民が様々な場所で地域的・社会的課題の解決のために市民活動を行える環境づくりを行う		
事業の内容	市民活動コーディネート講座の開催（全4回）		
役割及び責任分担等	事業項目	市大地域貢献センターの役割	市の役割
	講座の企画に関すること	講座の企画及び実施に係る各種調整	1 講座の企画及び実施 2 講師の選定・連絡・調整 3 講座開催場所の確保
	講座の広報に関すること	1 広報物の作成 2 横浜市立大学ウェブサイト、への掲載、学内での配架等による市民への広報	1 広報物の作成への協力 2 各区局への広報・各種調整 3 関連施設への広報・各種調整
	講座の実施に関すること	1 参加申込者の申込受付及び参加申込者への案内 2 参加申込者の取りまとめ 3 配布資料の印刷	1 講座の実施における各種事務 2 講座開催場所に係る費用負担 3 講師謝金に係る費用負担
実施期間	平成 28 年 11 月 8 日から平成 28 年 11 月 18 日		

記入日	平成 29 年 3 月 31 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 横浜市立大学 地域貢献センター ・記入責任者 氏名： 斉藤 亜紀子 連絡先： 045-787-8930
	<ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 横浜市市民局市民協働推進部 市民活動支援課 ・記入責任者 氏名： 高橋 節也 連絡先： 045-227-7965

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行います。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		市大地域貢献センター	横浜市
1	自分たちが行う事業の目的についてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	B	B

②事業実施段階

		市大地域貢献センター	横浜市
1	お互いが対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
3	事業の広報などについて、ホームページ等の様々な広報媒体を使って市民に発信することができましたか。	A	A
4	事業を進めるうえで問題等が発生した際に話し合い、解決することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		市大地域貢献センター	横浜市
1	受益者が満足を得られたかどうかについて、確認することができたか。	A	A
2	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

自由記入欄

<市大地域貢献センター>

今年度の講座は、短期間に詰まった日程となり、迅速な対応が求められる場面が少し増えましたが、煩雑になりがちなフィールドワーク等含め、双方に講座運営を工夫し、滞りなく実施することができました。土曜開催における出席率が想定よりも低く、講座日程・曜日の選定は今後の課題として改めて検討していく必要がありますが、受講者の大多数から本講座が役に立つ内容であったと評価を受けたため、

これを活かして次回の企画に繋げていきたいと考えています。

<横浜市>

今年度のテーマを“ヨコハマ市民まち普請事業からみる市民活動コーディネート的手法”をとし、座学をはじめフィールドワーク、ワークショップなど、お互いに工夫しあいながら内容の濃い講座にすることができました。また、今回の講座は4回の講座を短い期間で実施しましたが、事前の現地見や内容の摺り合わせを随時行うなど、双方で連携協力しながらきめ細かく対応することができました。昨年度に比べて若干参加者が減ったため、次年度に向けては一層の広報の充実が課題です。アンケートでの受講生の声や要望をふまえ、今後は次年度の開催に向けともに企画を組んでいきます。